

株式会社シナノ

■平成24年度テーマ

デザインの優れた歩行杖の加飾工程の開発と設備の最適化

■平成24年度概要

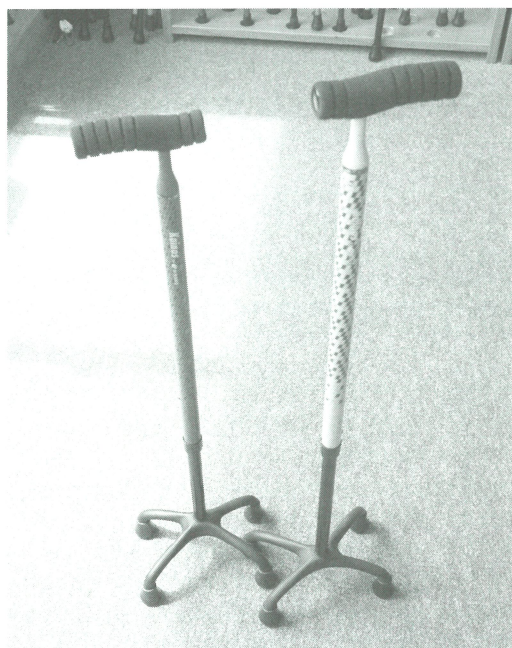
歩行杖の市場において、市場獲得のためには的確にユーザーの嗜好を捉えることが課題となっている。そこでこれらのきめ細かく多様なニーズを捉えるために、最新塗装技術による工程開発を実施し、小ロット高品位商品加工の工程と設備を実現させ、歩行杖の市場獲得を目指す。

■平成24年度分類

- ＜事業類型＞ 試作開発＋設備投資
- ＜競争力強化の形態＞ 小口化・短納期化型
- ＜22分野技術＞ 塗装

■事業の概要と成果

短尺製品専用の塗装機を導入することにより、今まで不可能であった「自己修復型オーバーコート塗料」やシボ、マット調といった質感の高い商品の提案が可能となった。また塗装機自体の能力が向上したため、段取時間の短縮や塗料の塗着効率が改善した。さらに前後工程の設備開発やものづくりの方法を再構築することによって、製造工程全体の効率アップや不良率低減を目指し、原価低減を達成させる。



■平成25年度テーマ

インクジェットプリンターを活用した曲面印刷システムの確立。

■平成25年度概要

スキーポールの加飾工程は多色展開や規格などに制約があり、デザイン性の制約や小ロットへの対応が課題となっている。インクジェットプリンターを活用して曲面印刷技術を確立し、デザイン性の高い商品を1本から提供して国内・海外での市場獲得を目指す。

■平成25年度分類

- ＜対象類型＞ 【ものづくり技術】
表面処理
- ＜事業類型＞ 一般型
試作開発＋設備投資

■事業の概要と成果

インクジェットプリンターを導入してそれを活用した曲面印刷システムを確立し、スクリーン印刷では不可能であったデザイン性の高い商品や写真画像のような高精細なものまでを商品化する新たな生産システムを構築した。これにより、デザインの幅が広がった（感性価値の向上）ばかりではなく、生産性の向上（20%アップ）、不良率の低減（0.15%→0.05%）、リードタイムの短縮（1ヵ月→1日）、コスト低減（20～30%）など様々な効果が上がり、海外品や国内他社との差別化が達成された。これらのメリットを武器にして市場ニーズの掘り起こしを図り、収益の柱となる事業に育て上げたい。



好機逸すべからず

「ものづくり補助金」採択企業を訪ねて

株式会社シナノ（佐久市）

創業以来一貫して「支える技術」を追求。
各種ポールで健康とWalking Lifeを支える。

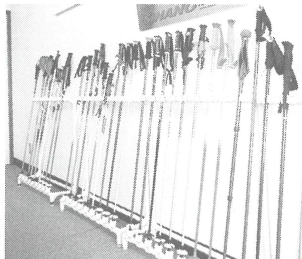
ポールウォーキングはここから

シナノは、国内トップシェアを誇るスキーポールをはじめとする各種ポールの企画開発から製造・販売まで一貫して行うメーカーです。



ポールウォーキング

スキーブームが最盛期を迎えた1990年代前半。年間約100万組もの生産量を誇り、国内シェア約3割。現在も国内シェア約4割を占める。



スキーポール

ところが、バブル崩壊とともにスキーブームにも陰りが。スキーポールは14～15万組程度まで落ち込んだ。経営不振にあえぐ中で、創業以来一貫して追求する「支える技術」を生かして取り組んだのが、歩行補助杖の生産でした。「当社の強みは、握りやすさを考え、強度を考え、身体を支えるポールの技術。そのノウハウを応用しました」と柳澤光宏社長。

高齢化社会に対応した歩行補助杖の生産をきっかけに、同社はより「健康」を意識した商品の開発に取り組みます。着目したのがノルディックスキーの夏期トレーニング用具として使われていたポール。長野市の整形外科医の協力のもと、健康志向に適った日本人ならではの使い方を徹底的に追求し、2007年「ウォーキング専用ポール」を発売しました。商品が知られるようになるにはさらに2年ほどかかりましたが、今ではポールウォーキングを楽しむ人は全国に広がっています。

「安全」なものづくりが高く評価

同社のポールは、シルクスクリーン印刷によるデザイン性の高さが特徴。歩行補助杖は、伝統工芸「真田ひも」をストラップに使用したり、金沢の金箔業者とコラボレーションするなど、高級志向の商品づくりで差別化を図っています。

同社はさらにファッション性の高い商品づくり

と合理的な生産体制をめざし、ものづくり補助金を活用して短尺専用塗装機を導入しました。短いシャフトを組み合わせる折り畳み可能なポールは従来、長いシャフトを印刷し最後にカットしていましたが、これで短尺塗装に対応。工程が合理化できる上、さらにデザイン性豊かな塗装が可能になりました。

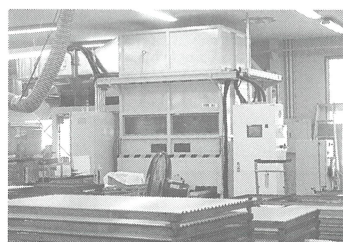


「真田ひも」を使った歩行補助杖

一方、同社は2013年「製品安全対策優良企業表彰」（経産省）で「商務審議官賞」を受賞。「安全」なものづくりが高く評価されています。

若きリーダー、柳澤社長に今後の展開を聞いてみました。

「ブランドの確立が重要であり、それぞれの商品ブランドごとに戦略を立てていく必要があります。例えばウォーキングポールは何かと組み合わせて健康増進を図るなど、ものづくりにとどまらないトータル的なプロデュースが必要になってき



短尺専用塗装機

ます。いろいろな企業とのコラボレーションも増えてきたので、さらに面白い展開ができると思いますよ」



株式会社シナノ

代表者 代表取締役社長 柳澤光宏
創業 1919（大正8）年
資本金 9,900万円 従業員数 41人
本社 佐久市岩村田1104-1



TEL.0267-67-3321 FAX.0267-67-3326
事業内容 杖・ステッキ、スキーポール、トレッキングポール、ウォーキングポールの製造・販売、レジャー用品の輸入・販売、FRP複合引抜材の製造・販売